

「愛の確信:恥を克服する」Confidence in Love : Overcoming Shame

IHOP大学講師 - マイク・ビッケル師 ヨハネ14章 三位一体との親密さ
ヨハネ13章～17章シリーズ、ヨハネ14:2-3

1. 復習 トラブルに心を支配されてはいけないというイエスの命令

A. イエスは弟子たちに、悩みに心を支配されてはならないと命じられました(ヨハネ14:1)。「悩みに支配されてはならない」という主の命令が示すように、そこには人間的な力関係があります。それに対して、イエスは私たちに平安を与えてくださいます。このセッションでは、恥に悩まされない方法として、神の愛に確信を持つことに焦点を当てます。

38イエスは答えられた「...鶏が鳴くまでに、あなたは三度わたしを知らないといひます。」(ヨハネ13:38)

1「あなたがたは心を騒がせてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。」

27...わたしの平安を与えます。...あなたがたは心を騒がせてはなりません....

(ヨハネ14:1、27)

1. セッション1では、愛する人の死による悲しみ、文化の危機や迫害による絶望と恐怖、個人的な失敗による恥、裏切りによる苦しさなど、4つの感情や考え方を自然に引き起こす7つのプレッシャーを挙げました。

2. イエス様はペテロに「あなたは三度、わたしを否定するが(ヨハネ13:38)、心を騒がせてはいけない」と言われました。ペテロに自分が思っているほど強くないことを伝えた上で、イエスはペテロがイエスを裏切ったという恥からくる心の悩みを克服するために、4つの核となる真理を与えました。

B ヨハネ14:1は、新しく生まれ変われという救いの訴えではありません。パリサイ人をはじめとするイスラエルの多くの人々は、モーセの神の姿を見ずに信じていました(ヨハネ5:37)。彼らは目に見えない神を信じていたのです。彼らはモーセの律法が目に見えない神から来たものだとして信じて、律法を細かく守っていました。イエスは彼らに、死んで見えなくなった後も、このようにして自分を信じるようにと呼びかけました。

1. イエスはいわば、「わたしはあなた方の目には見えませんが、モーセの律法を与えた目に見えない神を信じるように、わたしが語る4つの真実(14:2-3)を信じなさい」と言われたのです。

2. そのため、父を信じるのと同じように、自分を神として受け入れるようにと主張しました。

C. 使徒たちのつまずきの危機(イエスを否定したり見捨てたりすること)は、痛みを伴う個人的な失敗でした(13:38、16:33)。彼らに祈るように警告するために、イエスは彼らに「彼らはみな、自分を見捨てるだろう」と言われました(マタイ26:31)。

38...鶏が鳴くまでに、あなたは三度わたしを知らないといひます。(ヨハネ13:38)

32 あなたがたは、それぞれ散らされて、自分の所に帰り、わたし一人を残します。(ヨハネ 16:32)

30...彼らは賛美の歌を歌ってからオリーブ山に出かけた。31その時、イエスは弟子たちに言われた。「あなたがたは皆、今夜わたしにつまずきます34...(ペテロは)三度わたしを知らないと言います」。(マタイ26:30-34)

D. イエスはオリーブ山に向かう途中、ペテロに2度目のイエスを否定することを告げられました。ペテロはまたもや反発しました。ペテロは、イエスの自分への献身よりも、自分のイエスへの献身に自信を持っていました。その後、ペテロは、イエスの自分への献身よりも、イエスの自分への献身の方がはるかに優れていることを知ることになります。その結果、ペテロは、自分の弱さにもかかわらず、これほどまでに愛されていることに感謝の気持ちでいっぱいになりました。その結果、ペテロは自分の弱さにもかかわらず、こんなにも愛されていることに感謝し、罪や弱さに苦しむ人々に対する気持ちを変えていったのです。

E. 初代教会の指導者たちの生活の中で、さまざまな罪や弱さが強調されています(マルコ 9:33、10:33、ルカ9:54-55、使徒15:39、ローマ7:18-19、ガラテヤ2:13、1テモテ1:19-20、2テモテ4:10; 3ヨハネ1:9)

II. 神に享受されるという保証: 恥に勝る力

A. 神が人間の思いを創造されたので、人は自分が弱い立場にあっても神に楽しまれているという保証を切望しています。この確信は、神の愛を理解することによって、私たちの中で大きくなっていきます。神は、誠実な信者との関係を喜ばれます(イザヤ62:4、詩149:4、雅歌7:10、ルカ15:20)。ダビデは神の感情を学ぶ者でした。ダビデは神の感情を研究しており、その洞察力は詩篇全体に見られます。

4主はご自分の民を愛し、貧しい者たちを救いを持って装われる...(詩篇149:4)

4...しかし、あなたはヘプシバと呼ばれるだろう...主の喜びがあなたにあり...(イザヤ62:4)

18...あなたは咎を除き、...神は恵みを喜ばれるからです。(ミカ7:18)

B. 私たちは、たとえ弱さの中にあっても、自分に対する神の愛情を確信しなければ、霊的に成長することはできません。「創世記1章の神」の私たちへの愛情は、私たち人間としての価値を宣言するものです。神が私たちを楽しみ、あわれみを与えることを喜ばれるという確信(ミカ7:18)は、私たちの心を強くします。自信は、私たちが自分の罪深さを目の当たりにしたとき、神から逃げるのではなく、神のもとに駆け寄る力を与えてくれます。

C. 拒絶されるのではないかという恐怖心と羞恥心は、私たちが経験する最も一般的な破壊的で苦痛な感情と言えるでしょう。多くの心理学者は、罪悪感と羞恥心をどのように区別するかについて意見しています。ある見解では、罪悪感を持つ人は「自分のしたことは間違っていた」と捉え、それを正す責任を感じます。羞恥心を持つ人は、「自分という人間が間違っている」と結論づけます。自分や他人への怒りを爆発させ、人を避けたり、攻撃したりします。判断力に優れた人の多くは、羞恥心と闘っています。自分への嫌悪感を、他人を批判することで発散します。他人について言うことは、自分自身をどう見ているかをよく表し

ています。罪悪感と羞恥心という世俗的な言葉の対比は、聖書的な言葉で言えば、確信と非難という対比に似ています。

D. 自分の失敗を恥じたり、非難したりすることで心を悩ませているとき、私たちはどうすればいいのでしょうか。私たちは、神様が言ったことに同意するように心を整える必要があります。神の平和が私たちの心を守るのです。パウロは私たちに、祈りと感謝(中心的真理に対する)を行うように勧めています。つまり、神の平和を受け取るための基礎となる聖書の中心的真理に対する感謝を神との対話の中で表現するのです。

6 何も思い煩わないで、あらゆる場合に感謝をもって捧げる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。(ピリピ4:6)

2...心を新たにすることで、自分を変えていただきなさい... (ローマ12:2)

E. 私たちが自信を持てるのは、神が何をしたか(ヨハネ14:2)、神がどう感じているか(ヨハネ14:3)、そして神が誰であるか(ヨハネ14:4-10)によるのです。

2わたしの父の家には、住む所がたくさんあります...わたしが行って、あなたがたのために場所を用意し...3また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしがいるところに、あなたがたもいるようにするためです。(ヨハネ14:2)

1. 神が何をしたのか(14:2): イエス様は、父の家である新しいエルサレム(ヘブ11:10)の建築家であり、私たちがそこに住めるようにするために十字架にかかられました。

10 アブラハムは、建築家と建設者が神である都を探していました。(ヘブル11:10)

2. 神がどう感じているか(14:3): 私たちが彼と一緒にいることを望んでいます(17:24)。

3. 神は誰であるか(14:4-10): 父への唯一の道であり、父と一体である(ヨハネ10:30)。

III. 4つの核となる真理(ヨハネ 14:2-3)

A. イエスは、ヨハネの14章2-3節で、4つの中心的真理を宣言されました。そのうちの3つの中心的真理は、イエスが行ったことや、これから行うことについてであり、4つ目の中心的真理は、なぜそれを行ったのかを教えてください。

2わたしの父の家には、住む所がたくさんあります...あなたがたのために、場所を用意して行くと言ったのでしょうか3...また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。(わたしがいるところに、あなたがたもいることになる)(ヨハネ14:2、3)

1. 真理1: 父の家。そこでは、贖われた者たちが神の臨在の中で家族として共に住み、所属し、想像できるどんな楽園をも凌ぐ喜びと美しさを享受します。主は、私たちがこの時代に霊的には内在する御霊によって(14:17、23)、肉体的には主の再臨によって父の家を楽しむことができるように道を備えてくださいました。

2. 真理2: 私はあなたのために場所を用意します。イエスは永遠の救いを成し遂げることに成功しました。イエスは、私たちが父の家に永遠に住めるように準備し、完全に保証するために十字架にかかりました。一日のうちに「完了した」と叫ばれ、罪の償いの仕事が完成したのです。

3. 真理3: わたしはあなたのために戻ってくる。主は、ご自身の民をご自身のもとに迎え入れるために戻ってきます。主はこの時代の終わりに物理的にご自分の民のところに来て、エルサレムからすべての国を支配しますが、この時代には内在する御霊によって霊的にご自分の民のところに来ます(14:23)。

4. 真理4: わたしがいるところに、あなたがたもいるようにする。ここで、イエスは3つの分野(父の家、十字架にかかること、再臨)でご自身が行うこと背景にある理由を述べられました。イエスは、人々が彼を望む以上に、イエスが人々を望み、人々がイエスを望む以上に、イエスが人々に献身されるのです。この核心的な真理により、ペテロは自分の失敗を恥じて悩むことはありませんでした。

B. イエスは「父の家に連れて行く」と約束して、悩んでいる心を克服するとはどういうことかを詳しく説明し始めました。これは、彼らの人生に根本的な新しい視点を与えました。

C. イエスは私たちのために場所を用意するために十字架にかかりました。その「場所」は、私たちの罪を贖うために死なれたときに用意されました。私たちが神に受け入れられるためのあらゆる障害を取り除くために、私たちの代わりに神の怒りを受けなければなりません。罪のない人であるイエスが罪人となられたことで、罪人が神様の前に無実の人として立つことができるようになったのです。次の日、イエスは「完了した」と宣言されました。そして、私たちが今も永遠にそこにいることを認めてくださいました。

21神(父)は、罪を知らない方(イエス)を私たちのために罪とされました。(2コリント5:21)
24神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いを通して、価なしに義と認められるからです。これは、25神はこの方を、信仰によって受けるべき、血による宥めのささげものとして公にしめされました。ご自分の義を明らかにされるためです。神は忍耐をもって、これまで犯されてきた罪を見逃されてきたのです。26すなわち、ご自分が義であり、イエスを信じる者を義と認める方を示すため、今この時に、ご自分の義を明らかにされたのです。28人は律法の行いとは関わりなく、信仰によって義と認められると、私たちは考えているからです。(ローマ 3:24-28)

D. 「私が行くのは、あなたがたのために場所を用意するためである」と言ったとき、イエスは記念すべき発言をしました。この約束は、次の24時間で「永遠に完成する」という確信と最終性を帯びていました。主は、私たちが父なる神の家で、父との顔と顔を合わせた関係の中で生きるための場所を用意されました。

E. 彼らは、イエスが自分たちのために永遠の救いを成し遂げるために死のうとしているという、イエスが自分たちに言っていることの大きさを知らなかったのです。私たちは、十字架を求める心と十字架への集中力を失ってはいけません。

IV. イエスは、ご自分の民がご自分と共にあるための道を用意された(ヨハネ14:3)

A. イエスは再臨(14:3、マタイ24:30)、御霊によって彼らの中に住む(14:23)、復活後すぐに彼らの前に現れる(16:16)という3つの方法で、彼らに来るという約束を適用されました。

3私が行って、あなたがたに場所を用意したら、また来て、あなたがたをわたしの元にむかえます。わたしがいるところにあなた方もいるようにするためです。(ヨハネ14:3)

23イエスは彼に答えられた。「だれでもわたしを愛する人は、わたしの言葉を守ります。そうすれば、わたしの父はその人を愛し、わたしたちはその人の所に来て、その人とともに住みます。(ヨハネ14:23)

B. イエスは、私たちが永遠にご自分と共にあることを深く望んでおられます(14:3、17:24)。イエスはこれまでに3回、死んでよみがえることを伝えていましたが(マタイ16:21、17:22-23、20:17-19)、ここでは、イエスがなぜ死ぬのか、つまり彼らが「永遠にイエスと一緒にいる」ための道を準備するためだと話しました。

24.....わたしがいるところに、彼らもわたしとともにいるようにしてください。わたしの栄光を彼らが見るためです... (ヨハネ17:24)

18...聖徒たちが受け継ぐものがどれほど栄光の富にとんだものか...(エペソ1:18)

C. イエスは、私たちがイエスの近くにいることを保証するために、完全な代価を支払われました。イエスが死んでくださったので、私たちは恥から距離を置くことなく、主と一緒にいることができるようになりました。私たちがイエスを望む以上に、イエスは私たちが望んでおられます。このことを感謝します。

19...イエスの血によって大胆に(確信)聖なる聖所に入ることができます...全き信仰を持って近づこうではありませんか。私たちは動揺しないで、しっかりと希望を告白し続けようではありませんか。...(ヘブル10:19-23)

V. 弟子たちが失敗したとき、イエスはどのように対応したか

A. ペテロたちがつまずいた夜(マタイ26:31)、イエスは彼らを愛していると語り(15:9、17:23)、彼らを友と呼び(15:15)、彼らのために祈り、彼らに命の言葉をかけました(15:8)。イエスは決して変わることはありません(ヘブル13:8)。イエスが当時、使徒たちにどのように対応されたかは、イエスが私たちにどのように対応されるかということです。彼らがつまづく前に、彼らの上に真理を宣言されました。つまづく前に真理を信じる方が簡単です。

8あなたがたが多くの実を結び、わたしの弟子となることで、わたしの父は栄光をお受けになります...(ヨハネ15:8)

9父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛しました...(ヨハネ15:9)

11わたしの喜びがあなた方うちにあり、あなた方が喜びで満ちあふれるようになるために。...(ヨハネ15:11)

15...わたしはあなたがたを友と呼びました...(ヨハネ15:15)

B. イエスはペテロに命の言葉をかけ、回復して神に用いられることを確信させた。

31主は「シモン...サタンがあなたをふるいにかけることを願って...32わたしはあなたのために、あなたの信仰がなくならないように祈りました。ですから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちをカづけてやりなさい。(ルカ22:31-32)

C. イエスは、ペテロと出会ったときのことを再現しました(ヨハネ21:3-6、11、ルカ5:5-10)。ペテロはイエスを3回否定しましたが、イエスはペテロに3回「私の羊を養いなさい」と指導者として派遣し、語られました(ヨハネ21:15-17)。

15イエスはシモン・ペテロに「あなたは、他の人たちが愛する以上にわたしを愛しています」「わたしの子羊を飼いなさい」と彼らに言われた。16イエスは再び言われた。...わたしの羊を牧しなさい。17三度目には、「わたしの羊を飼いなさい」と言われた。(ヨハネ21:15~17)

D. 私たちは、反抗と神に誠実に従おうとする人の霊的な未熟さの違いを見分けなければなりません。神は反抗的な態度には怒られますが、神を愛する未熟な信者には愛情を表されます。

20...彼の父は...かわいそうに思い、駆け寄って、彼の首を抱き、口づけした... (ルカ 15:20)